

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和５年度 第６回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和６年３月１１日（月） １９：００～２０：１０
開 催 場 所	高松市医師会館 ２階 大会議室
議 題	１ 各部会からの報告 ２ 高松市在宅医療支援センターの報告について ３ その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	15人 吉澤委員長、大原職務代理、綾田委員、井上委員、大橋委員、片山委員、北代委員、田中委員、辻委員、永岡委員、橋本委員、花房委員、林委員、古川委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関係者	市医師会事務局（６人）その他：医師会（伊藤会長、香西副会長、真鍋理事、西口理事、香川理事）
傍 聴 者	０人
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係 ８３９－２３４６ 在宅医療支援センター ８３９－２３４４ 介護保険課 ８３９－２３２６ 地域包括支援センター ８３９－２８１１ 保健医療政策課 ８３９－２８６０

協議経過及び協議結果

１ 各部会からの報告

（１）在宅医療コーディネーター部会より（Ｃ委員）※都合により、順番変更

○ 1/9 第５回 在宅医療コーディネーター養成研修

・訪問診療の様子を、ビデオ撮影し受講生に見せて、説明した。

○ 3/17 第６回 在宅医療コーディネーター養成研修・公開講座について

【日時】令和６年３月１７日（日） １３：３０～

【場所】高松国際ホテル 新館２階 瀬戸の間

【内容】在宅医療コーディネーター養成研修修了証授与式及び公開講座

【講師】山梨市立牧丘病院 古屋 聡先生（山梨県山梨市）

【講演】「在宅医療と介護～能登半島地震の経験を交えて～」

Ｃ委員

・講師の古屋先生は、お母様を看取った経験もある。看取りに関することや能登半島地震の支援について講演をしていただく予定である。

(2) 多職種連携部会より (B 委員)

○ 令和 5 年度 多職種連携研修会

【日時】令和 6 年 2 月 12 日 (月・祝) 9:30～

【場所】高松市医師会館 5 階ホール

【内容】「BCP (業務継続計画) を支える多職種連携の輪～全ての人がつながるために～」を、テーマに、講演とパネルディスカッション、名刺交換会を実施。

【講師】ミネルヴァベリタス株式会社 顧問 本田 茂樹氏

【講演】「今こそ求められる BCP～準備と連携がすべて～」

【参加者】医療、介護関係者 112 名

【パネリスト】高松市危機管理課、高松市健康福祉総務課、日本赤十字社香川支部、香川県社会福祉協議会、訪問看護ステーションあした

○ 令和 5 年度 多職種連携研修会 アンケート結果

【回答者数】74 名 【回答率】66.1%

- ・多職種連携構築に関する自己評価点数の平均が、4.8 であることについて、普段の多職種連携は、できているが、BCP や災害時対応に関する多職種連携については、発展途上である、と考えている多職種が多かった。

B 委員

- ・研修会の振り返りを、多職種連携部会で行う。
- ・講演やテーマについて、受講者からの評価は良かったが、今回は、施設や事業所の具体的な取り組みを共有することが難しかった。

A 委員

- ・事前申し込みよりは減少したが、多くの人が参加してくれた。
- ・南海トラフ地震の被害想定が、当初よりも大きくなってきている。BCP 作成とブラッシュアップに取り組んでいく必要がある。

(3) 退院支援・医療介護連携部会より (S 委員)

○ 2/16 第 6 回 退院支援・医療介護連携部会

- ・在宅医療介護情報サイト内新規コンテンツの名称を「在宅医療介護 Q&A」に決定。
- ・実際に、新規コンテンツ「在宅医療介護 Q&A」を見ながら、検索カテゴリーや操作仕様の説明を実施。
- ・掲載 Q&A(デモンストレーション)を、確認する。
- ・掲載内容については、部会で精査したうえで、在宅医療介護連携推進会議で承認を得てから掲載する。
- ・各職能団体が自ら考えるものに加えて、他の職能から多職種への質問を掲載する予定。
- ・医療介護連携ミーティング開催後には、ミーティングで知りえた新たな情報を掲載する。
- ・4 月掲載を目指して取り組む。

○ 令和 6 年度 第 1 回 医療介護連携ミーティング

- ・年間 2 回 (7 月、11 月) 開催予定。
- ・多職種理解を目的に、リハビリテーション分野にスポットを当てた内容にする予定。
- ・適切なケアマネジメント手法に取り上げられているように、脳血管疾患や心不全を取り

上げるように検討している。

C 委員

- ・在宅医療介護 Q&A の回答について、回答者の所属が明記されていない。個人名までは必要ないと思うが、所属団体を明記して文責の所在をはっきりさせる必要があると思う。各職能が回答している内容の問い合わせに対して、行政では対応ができない。

S 委員

- ・行政と在宅医療介護連携推進会議が連携して作成するので、回答者の明記の仕方について、業者の意見を確認しながら、部会で検討する。

(4) ICT 部会より

- 1/17 第 3 回 ICT 部会
- 2/28 第 4 回 ICT 部会
 - ・入院時情報共有シートのクラウド化に取り組んでいる。
- 在宅ケア便利ナビの更新について
 - ・クリニック（1 件：変更）、薬局（1 件：新規）について、掲載の承認を得る。

A 委員

- ・診療報酬改定で、在宅療養で ICT を活用した多職種連携についての算定が含まれる。在宅医療介護連携に関わるので ICT 部会として取り組まなければならないと考えている。

2 高松市在宅医療支援センターの報告について

- 令和 6 年 1 月・2 月の活動報告
 - 【相談件数】 11 月：17 件 12 月：16 件
 - 【その他】 医療機関や事業所に対する情報収集や市政出前講座を実施。
 - 【事例報告】 悪性新生物患者から緩和ケア病棟の情報提供依頼について。

3 その他

- 令和 6 年度 事業全体計画等について（長寿福祉課）
 - ・既存事業を実施しながら、事業全体の見直しを行う。
 - 【ICT 部会】
 - ・在宅ケア便利ナビの更新、医療介護連携ツールの検討を行う。
 - 【在宅医療介護連携推進会議】
 - ・奇数月、第 2 月曜日定期開催。
 - 【在宅医療コーディネーター部会】
 - ・養成研修及びスキルアップ研修を実施予定。
 - ・コーディネーターを対象に実施した、意見交換やアンケートの結果（所属内で担当業務としてコーディネートすることと、所属外で担当業務以外のことに、取り組むコーディネーター活動の違いが曖昧なことやコーディネートを円滑に行うためには、コーディネーター間の関係づくりが重要であると考えている）からスキルアップ研修は、知識習得に加え、情報共有や事例検討等を通して、コーディネーターの連携強化に取り組む。
 - 【退院支援・医療介護連携部会】
 - ・医療介護連携ミーティングを年間 2 回（7 月、11 月）開催予定。

- ・入退院支援ルール、入院時情報共有シートの見直しを行う。
- ・在宅医療情報サイト内、在宅医療介護 Q&A の掲載、更新を行う。各職能団体から掲載 Q&A を集めて、閲覧者からの質問への回答も行う予定。

【多職種連携部会】

- ・徳島市と合同開催にて、市民公開講座の実施を検討中。内容は、劇団たんぽぽによる「ゆずり葉の季節」の上演を検討。

C 委員

- ・在宅医療コーディネーターの受講者の保有資格として、管理栄養士、栄養士を追加することの承認をお願いしたい。
- ・在宅医療コーディネーターの活躍の場の確保について、社会福祉協議会に福祉系相談員（まると福祉相談員）は設置されているが、医療系相談員の設置はない。在宅医療コーディネーターが活躍できるように、行政と相談したい。

A 委員

- ・在宅医療コーディネーターの受講資格に、管理栄養士、栄養士を加えることについて、異論がないようなので承認する。
- ・在宅医療コーディネーターの活躍の場の確保について、自所属での担当業務があるので、行政の相談窓口等に出向ければ良いが、所属先の理解が必要なので難しい。

C 委員

- ・在宅医療コーディネーターへの報酬も難しいと思われるし、相談対応を強制するものではない。メール等により、事例に対する助言やアイディアを募集することで、本業やプライベートに影響が出ないようにし、まずは協力してもらえらるコーディネーターとの連携の形を作っていければ良いと考えている。

○ 関係から情報提供

1) 委員推薦依頼について

- ・在宅医療介護連携推進会議委員の任期が、令和 6 年 3 月 31 日までである。次任期（令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）の委員の推薦依頼を各職能団体に送付している。令和 6 年 3 月 15 日までに、現時点での回答をしていただくようお願いする。

2) 国保・高齢者医療課から在宅療養に関するデータの提供について

- ・在宅における看取りに関する診療件数について、さらなる分析が必要である。

（参考）第 4 回 高松市在宅医療介護連携推進会議

【次回の会議】

令和 6 年 5 月 13 日（月） 19:00～ 高松市医師会